令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科		2年
科目名	ビジネス実務Ⅲ	科目区分	(一般科目)・専門科目
開講期	(前期)・後期・通年	担当教員	髙月　香帆里
時間数	前期：46時間　／　後期：時間		
科目の目的と講義内容	日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人材」には、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。 そのために必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とした講義内容を１年次からレベルアップさせることを目的とする。		
目指す検定・資格			
指導方法及び学生に期待すること	上記の目的が達成できるように講義と共に一般常識等の確認テストや社会人になるための動機づけ、やりがいなどを具体的に学生に伝えていき、社会人として常識なる人材になれるようにする。		
その他	各学科の業界に合わせた就職活動に必要な内容も入れる。 人間力向上のための学科行事、全体行事に向けての指導を含む。		
	前期		
授業の概要	1年次で学んだ一般常識、マナーの知識を活かし、さらなるレベルアップを目指す。 この知識と今までの授業や実習などで得た知識を活かし、就職活動に挑む強い心を育む。 また、社会人としての心構えを身につける。		
到達目標	①自ら即就職活動ができる。 ②社会人として必要なマナー・礼儀を身に付け、早期出社ができるようにする。 ②漢字力・計算力を身に付け活用できる。		
成績評価方法	期末試験（95%）、出欠席（5%）		
テキスト・副読本	テキスト： 「社会常識マナー検定テキスト」全国経理教育協会		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　2年		
科目名	英会話Ⅰ	科目区分	(一般科目)・専門科目
開講期	前期・後期・(通年)	担当教員	難波　芳子
時間数	前期：15 時間　／　後期：　時間	実務経験：米国大学卒業後、英会話教室にて幼児～高校生までに英会話を教えていた経験を活かし、学生が、日常英会話から保育所・幼稚園業界で使用される会話が理解できるよう講義する。	
科目の目的と講義内容	グローバル社会が進む中で、保育園、幼稚園でも教育の中に英会話を取り入れた園が増えてきている。本校の学生が直接子どもたちに英語を教える機会は少ないかもしれないが、子どもたちが外国人の先生から学んだ英語を使う機会は日々の中にある。子どもたちが学んだ英会話を使う機会に教師が対応できる程度の会話力を身に付けることを目的としている。		
目指す検定・資格	保育士・幼稚園教諭		
指導方法及び学生に期待すること	外国の文化や教育観に触れ、楽しく英語を学んでほしい。社会は急速にグローバル化し、英語で基本的なコミュニケーションが取れる必要性は今後ますます高まってくる。日常生活の中で、英語が必要となった時に英語がすぐに出るようにしっかり身に付けて欲しい。		
その他			
	前期		
授業の概要	・日常生活の簡単な英会話を話す ・海外の文化理解 ・保育園・幼稚園で使用される単語や会話の理解		
到達目標	・日常生活の中でよく使われる英語表現を学び、自分自身のことを表現することができるようになること ・幼稚園や保育園で関わる外国人の先生と少しの会話ができる ・外国の異文化を理解する		
成績評価方法	期末テスト（85%）、確認テスト（10%）、出欠席（5%）で評価をつける。		
テキスト・副読本	・Happy English for Childcare　Maiko Tsuchiya　KENSEIDO		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　2年		
科目名	英会話Ⅰ（スクーリング）	科目区分	(一般科目)・専門科目
開講期	前期・後期・(通年)	担当教員	難波　芳子
時間数	前期：　時間　／　後期：15時間	実務経験：米国大学卒業後、英会話教室にて幼児～高校生までに英会話を教えていた経験を活かし、学生が、日常英会話から保育所・幼稚園業界で使用される会話が理解できるよう講義する。	
科目の目的と講義内容	グローバル社会が進む中で、保育園、幼稚園でも教育の中に英会話を取り入れた園が増えてきている。本校の学生が直接子どもたちに英語を直接教える機会は少ないが、子どもたちが外国人の先生から学んだ英語を使う機会は日々の中にある。子どもたちが学んだ英会話を使う機会に教師が対応できる程度の会話力を身に付けることを目的としている。		
目指す検定・資格	保育士・幼稚園教諭		
指導方法及び学生に期待すること	外国の文化や教育観に触れ、楽しく英語を学んでほしい。社会は急速にグローバル化し、英語で基本的なコミュニケーションが取れる必要性は今後ますます高まってくる。日常生活の中で、英語が必要となった時に英語がすぐに出るようにしっかり身に付けて欲しい。		
その他			
	前期		
授業の概要	・日常生活の簡単な英会話をはなす ・保育・教育実習の準備としての英語教材の作成 ・映画（洋画）鑑賞とレポート作成		
到達目標	・日常生活の簡単な英会話が理解できる ・英語教材を作成し、実践ができるようにする ・子どもたちの前で英語で指示できるようになる		
成績評価方法	スピーキングテスト（20%）、授業態度（70%）、提出物（10%）で評価をつける。		
テキスト・副読本	講師作成資料配布		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　2年		
科目名	音楽表現技術	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	前期・(後期)・通年	担当教員	井上　美樹
時間数	時間　／　後期：15時間	実務経験：音楽大卒業後30年以上、音楽教室講師として幼児から大人まで、ピアノ、電子オルガン、リトミック、音楽理論、幼児指導法等を教えている経験を活かし、保育の現場で役に立つ技術力と実践力を養う。	
科目の目的と講義内容	「幼児と音楽表現」での学修を元に、楽曲や声楽など技術向上をすることや教育・保育の現場で必要なレパートリーを増やしていく。 子どもの前で実践することを目的とした、体験的な学びを取り入れる。		
目指す検定・資格	特になし		
指導方法及び学生に期待すること	指定されたピアノ演奏、伴奏、弾き歌い、声楽などを習得し参加することで、その実践力の向上を図る。		
その他			
授業の概要	子どもの歌やコールユーブンゲンを歌うことでレパートリーを増やし音程の感覚を養う。 楽曲の作品解釈を行い、音楽表現の向上と音楽方法についても検討する。(声楽の基本と、読譜力を付けることを主とする。) 感性を育む音楽鑑賞も併せて学ぶ。		
到達目標	「幼児と音楽表現」での学修を元に、より実践的な歌唱法、ピアノ演奏法、伴奏法、表現法を習得する。 教育現場で必要な声楽曲や弾き歌いのレパートリーを増やす。		
成績評価方法	実技試験、授業への積極的参加、課題		
テキスト・副読本	テキスト：「音楽＜声楽教本＞」「音楽＜ピアノ教本＞」 「子どものうた１００選」 参考資料：授業中に適宜資料を配布する。		

専門学校　岡山情報ビジネス学院

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　2年		
科目名	幼児と造形表現	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	前期・(後期)・通年	担当教員	伊藤　智里
時間数	15時間		
科目の目的と講義内容	造形・色彩研究・デザインなどの学習を通して、幼児への造形教育に必要とされる基礎的な理論、技法、表現法を習得する。		
目指す検定・資格	特になし。		
指導方法及び学生に期待すること	体験的な学びとその記録を通して、幼児に対する指導に必要な技術を習得する。 また、それぞれの体験を言葉で伝え、今後の指導に役立てる。		
その他			
	前期		
授業の概要	授業では、幼児画の発達講義において幼児画の発達過程と特長の理解を深め、幼児期の発達に適した創作活動の援助について考察する。 子どもの表現の特徴を学び、子どもとの創作活動への展開と適切なあそびへの援助に役立つ表現方法の演習体験により習得する。 作品製作体験後、演習後記の記述から課題に対する自分の意見発表、課題の活用方法の検討を行い、作品鑑賞と子どもの表現活動への展開を図る。		
到達目標	本講義では、誕生から６歳までの幼児表象画縦断的記録作品の考察から子どもの描画発達と表現の特徴を学び、保育援助の本質となるそれぞれの子どもの発達段階に適した援助について理解を深める。 作品制作では創作の楽しさを体験し、素材や用具について理解を深めることで、主体的な創造活動を通して自己表現を育み幼児の造形表現に寄り添い、成長を見守る保育者として必要な造形教育援助方法の習得を目指す。		
成績評価方法	講義ごとの課題・提出物		
テキスト・副読本	・テキスト「造形表現（指導法）」教科書 ※近畿大学九州短期大学　通信教育部発行 ・その都度、資料を提示する。		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　2年		
科目名	幼児と健康	科目区分	一般科目・専門科目
開講期	前期・後期・通年	担当教員	石田　博也
時間数	15時間		
科目の目的と講義内容	幼児期の運動遊びを追体験することを通して学びを深め、今の時代に必要な幼児の運動遊びについて理解する。 また、実践演習をすることで現場の保育者として活躍を目指す。		
目指す検定・資格	特になし。		
指導方法及び学生に期待すること	幼児の運動遊びの理解と実践を計画し、実施できる。 乳幼児期の発達を具体的にとらえ、幼児期の「基本運動」を中心とした運動経験の重要性について理解する。		
その他			
	前期		
授業の概要	幼児期の運動遊びを追体験することを通して、保育者として必要な運動遊びのレパートリーを増やすこととバリエーションの拡げ方を理解するとともに、運動遊びの指導に必要な保育技術についても検討したい。 また、運動指導の系統性に関する理論学習によって就学前体育の実践課題についても検討する。 遊びの本質である楽しさを理論的に理解し、実践できるよう実践形式で行う。		
到達目標	・「今の時代を生きる子どもたち」に対する運動遊びのもつ教育的意義について説明できる。 ・各種の運動遊びを素材とした短期の指導計画を作成することができる。 ・運動遊びの「ねらい」を実現するために必要な効果的な指導技術を習得する。		
成績評価方法	授業中に提示する課題レポート、単位修了試験（発表などの実践）		
テキスト・副読本	配本テキスト 参考文献：厚生労働省『保育所保育指針解説書（H30年3月）』フレーベル館 随時、資料を配布する。		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　2年		
科目名	子ども家庭福祉	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	(前期)・後期・通年	担当教員	伊丹　稔博
時間数	前期：30時間／後期：　時間	実務経験：大学卒業後、介護施設、障がい者施設にて、直接介護、サービス管理提供責任者としての経験を活かし、法制度、虐待児への対応、家族への支援等の講義を行う。	
科目の目的と講義内容	子どもと家庭を取り巻く社会現象や生活環境の背景について理解するとともに、児童家庭福祉に関する法律や職業について学習する。		
目指す検定・資格	特になし。		
指導方法及び学生に期待すること	子どもと家庭を取り巻く環境の変化や児童福祉の制度・法律を理解し、将来子どもやその家庭が抱える問題や背景、手立てに目を向けることができる知識を身につける。		
その他			
	前期		
授業の概要	・現代の子どもと家庭を取り巻く環境の変化について（少子高齢化、家族形態の変化、地域社会の変化、学校内の問題と取り組みの変化） ・子ども家庭福祉にかかわる法律について ・子ども家庭福祉の機関と専門職について		
到達目標	・少子化の要因と少子化が子どもに与える影響とを結び付けて自分なりの言葉で説明できる。 ・核家族世帯の増加に伴う子どもの生活習慣の変化を説明できる。 ・地域社会の変化に伴う子育て機能の変化を自分の言葉で説明できる。 ・児童福祉六法の名前を憶え、各法律の目的や対象の区別がつく。 ・各児童福祉施設を知り、設置目的や対象の区別がつく。		
成績評価方法	・期末試験（95%）、出欠席（5%）		
テキスト・副読本	「子ども家庭福祉―子どもと家庭を支援する―」　大津泰子 著　ミネルヴァ書房 プリント対応		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　2年		
科目名	社会的養護Ⅱ	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	(前期)・後期・通年	担当教員	中原　崇
時間数	15時間		
科目の目的と講義内容	社会的養護における子どもの権利擁護や保育士をはじめとした児童福祉施設を通して、児童福祉専門職の倫理について学ぶ。 社会的養護の原理原則を踏まえて、機能や役割について学ぶ。		
目指す検定・資格	特になし。		
指導方法及び学生に期待すること	主体的に学びに参加し、支援の必要な子どもやその家庭についての理解を深める。 映像など視覚的学びから自らの考えや意見を述べることができる。		
その他			
	前期		
授業の概要	家庭的養護と施設の小規模化、ソーシャル・インクルージョン（社会的包括）の拡がりの中で、居住型の児童福祉施設における養護の理解を深める。 また、特に障害や虐待により人との信頼関係構築が難しい児童を支援するための知識や技能を習得させるとともに、施設養護観の形成を目指す。		
到達目標	社会的養護の原理と原則を踏まえて、以下の４点に重点を置く。 1. 社会的養護施設の機能と役割を説明できる。 2. 自立支援計画や養護の理解と簡単な作成を行える。 3. 事例を通して、施設保育者の役割と意義を学び、自らの意見を述べることができる。 4. 子ども虐待の防止と家庭支援について説明できる。		
成績評価方法	試験結果 レポート課題 授業への積極的参加（受講態度）		
テキスト・副読本	講師より、資料を配布する。		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　２年		
科目名	子ども家庭支援論	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	(前期)・後期・通年	担当教員	伊丹　稔博
時間数	前期：30時間／後期：　時間	実務経験：介護施設、障がい者施設にて、直接介護、サービス管理提供責任者としての経験を活かし、法制度、虐待児への対応、家族への支援等の講義を行う。	
科目の目的と講義内容	現代の家庭の抱えている問題、少子化等を理解し、保育士として家庭への支援のあり方や具体的方法を学ぶ。		
目指す検定・資格	特になし。		
指導方法及び学生に期待すること	時代背景や現在の家庭の状況を理解できる。 家庭への支援方法や支援機関を理解し伝える事が出来る。		
その他			
	前期		
授業の概要	・こども家庭支援の必要性の理解 ・地域社会の移り変わりによる支援方法の変化 ・保育士、幼稚園教諭の支援方法 ・虐待家族への支援方法		
到達目標	社会の変化による諸問題を知り、現代社会に求められている学ぶことで家庭支援の在り方を理解する。		
成績評価方法	近畿大学科目試験にて単位互換とする		
テキスト・副読本	子ども家庭支援論 松原　康夫　村田紀子　南野奈津子		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　２年		
科目名	障害児保育	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	(前期)・後期・通年	担当教員	伊丹　稔博
時間数	前期：15時間　／　後期：　時間	実務経験：介護施設、障がい者施設にて、直接介護、サービス管理提供責任者としての経験を活かし、法制度、障がい理解、援助方法、家族への支援等の講義を行う。	
科目の目的と講義内容	障害児保育を支える理念について学び、障害児及びその保育について理解する。 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。		
目指す検定・資格	特になし。		
指導方法及び学生に期待すること	障害児保育の経験を話しながら、保育者として、子どもの個々の違いに気づき、個々の援助を考えることができるようにする。		
その他			
	前期		
授業の概要	・障害の概念 ・広汎性発達障害 ・知的障害について ・身体障害について ・直接介護の支援方法について		
到達目標	・障害の分類を知る。 ・保育者として、障害児への関わり方を考える。 ・関係機関や施設を知る。		
成績評価方法	レポート提出、小テスト（95%）、出欠席（5%）		
テキスト・副読本			

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　2年		
科目名	子どもの食と栄養	科目区分	一般科目・専門科目
開講期	前期・後期・通年	担当教員	土居　直美 髙月　香帆里
時間数	15時間 （スクーリングと合わせて30時間）		
科目の目的と講義内容	健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 子どもの成長段階における食生活について理解する。		
目指す検定・資格	特になし。		
指導方法及び学生に期待すること	子どもの発達と食に関する内容の理解を深める。		
その他			
	前期		
授業の概要	保育者として小児に適切な食事環境を提供できるよう、各時期の特性や、栄養について理解することを目指す。 小児の疾病と食生活、食事での配慮など必要な子どもへの対応や障がいのある子どもへの対応などを学ぶ。 体験的学習を実施しながら、内容の理解と実践力の向上を図る。		
到達目標	小児の発達・発育の特性、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食（保育所給食）、食育の重要性を理解する。		
成績評価方法	科目試験		
テキスト・副読本	テキスト：二見大介・高野陽編『子どもの食と栄養』、北大路出版		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　2年		
科目名	子どもの食と栄養（スクーリング）	科目区分	一般科目・専門科目
開講期	前期・後期・通年	担当教員	多久和　直樹
時間数	15時間	実務経験：保育士として、さらに保育士養成校にて教師として10年従事。 現在は、保育所を開園し、園長として、子どもひとりひとりの「学びたい」気持ちを育む保育を展開している。この経験と栄養士としての知識をもとに実践的な指導を行う。	
科目の目的と講義内容	健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 子どもの成長段階における食生活について理解する。		
目指す検定・資格	特になし。		
指導方法及び学生に期待すること	子どもの発達と食に関する内容の理解を深める。		
その他			
	前期		
授業の概要	保育者として小児に適切な食事環境を提供できるよう、各時期の特性や、栄養について理解することを目指す。 小児の疾病と食生活、食事での配慮など必要な子どもへの対応や障がいのある子どもへの対応などを学ぶ。 体験的学習を実施しながら、内容の理解と実践力の向上を図る。		
到達目標	小児の発達・発育の特性、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食（保育所給食）、食育の重要性を理解する。		
成績評価方法	実習態度点 実習レポート 課題レポート（おたよりの作成）		
テキスト・副読本	テキスト：二見大介・高野陽編『子どもの食と栄養』、北大路出版　2011年 随時講師より資料の配布を実施する。		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　2年		
科目名	子どもの保健	科目区分	一般科目・専門科目
開講期	前期・後期・通年	担当教員	伊丹　稔博
時間数	前期：30時間　／後期：時間		
科目の目的と講義内容	子どもにかかわる職種において子どもの健康を保持し、健康状態の変化を察知することが重要であり、その専門知識を身につけるため。 大人とは異なる様々な特徴を捉え、「小児基準」で子どもの健康を考えることのできる知識を養うため。 子どもは身体の諸機能が未熟で十分発達していないため、急変、重症化しやすく不慮の事故も予想される。しかし、早期発見、予防（対策）ができれば回復も早いという特徴がある。保育に関わる上で、専門的な知識と技術が求められる。 そこで、子どもの健康と生命を守るための実践力を身に付けることを目標とする。		
目指す検定・資格	特になし		
指導方法及び学生に期待すること	なぜ子どもの保健の知識が必要であるかを現場と結びつけながら講義を進める。 グループワークや発表の機会を設け、学生が主体となる授業を目指す。		
その他			
	前期・後期		
授業の概要	・子どもの保健とは何かについて ・子どもの健康を脅かすもの（物的環境・人的環境）について ・日本の子どもの保健水準について ・子どもの発育の評価方法について ・生理機能の発達と保健について（体温、代謝、循環、排泄、睡眠など） ・精神機能の発達と保健について（言語、社会性、情緒など） ・子どもの疾病の特徴、対応 （流行性疾患、呼吸器疾患、感染症、消化器疾患、循環器疾患、中枢神経系疾患、血液疾患など） ・アレルギー疾患とその対応 ・その他の疾患 ・整形外科疾患 ・保育所における感染症の取り扱い ・保育現場における衛生管理 ・子どもの事故と現状（応急処置） ・現場で役立つ救急時の対応		
到達目標	・子どもの保健の専門的知識が現場とどう結びつくのか、自分なりの言葉で説明できる。 ・子どもがかかりやすい疾病とその対応について学び、知識の習得をする。 ・習得した知識を実際に行う応用力を持つ。 ・保育現場における環境や衛生面の重要性を捉え、実践できる。		
成績評価方法	・科目終末試験（95%）、出欠席（5%）で総合的に評価する		
テキスト・副読本	新版よくわかる子どもの保健　丸尾良浩　竹内義博　編　ミネルヴァ書房（2021年）		

専門学校　岡山情報ビジネス学院

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　２　年		
科目名	多文化共生保育	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	前期・後期・(通年)	担当教員	難波　芳子
時間数	前期：15 時間　／　後期：　時間		
科目の目的と講義内容	①文化の定義を理解し、異文化理解の基本的考え方を習得する。 ②異文化を相対的に理解することの意義を理解する。 ③幼児教育現場における多文化共生の実践は、幼児・保護者・保育者のみならず、地域社会との連携を通して可能であり、そのためには異文化間の対話が必要であることを理解する。		
目指す検定・資格	保育士・幼稚園教諭		
指導方法及び学生に期待すること	事前学習として、3 法令を熟読し、多文化共生の関連項目について学習する。また、世界の幼児教育の動向について学習しておく必要がある。日常生活と通して新聞、テレビ、文献など具体的な情報を多文化共生の視点で理解できる知見を獲得しておく。		
その他			
	前　期		
授業の概要	・文化の定義・文化相対主義、グローバリズムなど異文化理解に必要な基本的概念を理解する。 ・外国の文化や考え方について幼児期から親しみを持つための工夫や環境構成について学習する。 ・日本文化を子どもたちに理解してもらうための知識や方法について学習する。 ・3 法令にみられる多文化共生関連部分を理解する。		
到達目標	・近畿大学九州短期大学におけるレポート・科目試験に合格すること		
成績評価方法	前期試験（95%）、出欠席(5%)で評価をつける。		
テキスト・副読本	多文化保育・教育論　咲間　まり子編　みらい		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　2年		
科目名	多文化共生保育（スクーリング）	科目区分	一般科目・専門科目
開講期	前期・後期・通年	担当教員	難波　芳子
時間数	前期：時間　／　後期：15　時間		
科目の目的と講義内容	文化の定義、文化相対主義、グローバリズムなどの異文化理解に必要な基本的な概念について学習する。また、外国の文化や考え方について幼児期から親しみをもつための工夫や環境構成について学ぶ。また、日本文化を子どもたちに理解してもらうための知識や方法についても学習する。世界の幼児教育の制度や動向について学習する。		
目指す検定・資格	保育士・幼稚園教諭		
指導方法及び学生に期待すること	事前学習として、3 法令を熟読し、多文化共生の関連項目について学習する。また、世界の幼児教育の動向について学習しておく必要がある。日常生活と通して新聞、テレビ、文献など具体的な情報を多文化共生の視点で理解できる知見を獲得する。		
その他	留学生との交流時間の中で、外国の幼児教育の調べ学習を行い、各国の現状についてグループで発表する。		
	後期		
授業の概要	・グローバル化と教育 ・文化の定義 ・異文化理解の視点 ・世界の幼児教育の動向		
到達目標	文化の定義を学習し、異文化を相対的に理解することの意義について学ぶ。また、幼児教育現場における多文化共生の実践は、幼児・保護者・保育者のみならず、地域社会との連携を通して可能であり、そのためには異文化間の対話が必要であることを理解する。（留学生との交流授業で、海外の保育（教育）制度について知識を深める）		
成績評価方法	パワーポイント作成（70%）、授業中の発表（30%）		
テキスト・副読本	多文化保育・教育論　咲間　まり子編　みらい		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　2年		
科目名	保育の心理学	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	前期・(後期)・通年	担当教員	土居　直美
時間数	前期：　時間　／　後期：30　時間	実務経験：保育所、子育て支援センターでの経験を経て、子どもの発達にかかわってきた。この経験を活かし、子どもの内面を理解することの大切さを学生に理解させる。	
科目の目的と講義内容	保育者として乳幼児期の子どもを理解するために「障害発達」の視点は重要である。子どもの精神発達原理や道筋を理解して、子どもの発達像を思い描くことで「今」の子どもたちの発達にとって必要な援助を導きだす。 また、基本的発達の知識を学ぶことで見通しをもった発達支援を行う。		
目指す検定・資格	特になし		
指導方法及び学生に期待すること	発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解が深まるように、具体的な事例を通して学ぶ。		
その他			
	後　期		
授業の概要	・発達心理学とは何か ・発達理論（成熟説・環境説・輻輳説・相互作用説） ・言語の発達 ・知的発達（ピアジェ） ・環境と発達（初期経験の影響） ・感情の発達 ・社会性の発達 ・道徳性の発達		
到達目標	保育実践にかかわる心理学の知識を習得し、保育における発達援助のあり方を具体的に考えることができる。		
成績評価方法	レポートおよび科目試験 100%		
テキスト・副読本	使用教科書：実践に活かす保育の心理学　原口喜充　編著　ミネルヴァ書房 『保育の心理学』宮原和子・宮原英種　著　　近畿大学九州短期大学 『保育に生かす教育心理学』伊藤健次　著　　㈱みらい		

専門学校　岡山情報ビジネス学院

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科	2年	
科目名	教育相談	科目区分	一般科目 ・ (専門科目)
開講期	前期 ・(後期)・ 通年	担当教員	土居　直美
時間数	前期： 時間 ／ 後期：30時間	実務経験：保育士として保育所、子育て支援センター勤務の経験を活かし、具体的な事例検討も交え、より実践的な理解を図る。	
科目の目的と講義内容	・保護者の心を支えることの基本的な考え方とカウンセリングや心理学の基本的理論、カウンセリング技法を学ぶ。 ・保育者として保護者の内面理解をしながら心の支えになること、そのうえで保護者に子育ての養育力をつけていくことを目的とする。		
目指す検定・資格	特になし。		
指導方法及び学生に期待すること	・実例を挙げながら、クライエントとカウンセリングの役になり実践演習の中でより学びを深めていく。 ・人との関わりが大切であり生活において基本であることを理解し、相手に対して敬愛の念や思いやりの気持ちをもって接する意識が高まる。		
その他			
	後期		
授業の概要	・カウンセリングの理論と技法・基本的な考え方 ・日常の保護者との関わり方 ・保護者への支援の仕方（養育困難・障がいのある子どもを持つ・精神疾患） ・親としての成長を支える保育者としての視点を学ぶ ・保育者として自分と向き合う		
到達目標	・保育者として保護者の子育てを支え、子育ての協力者であることの自覚 ・傾聴の大切さの理解と日ごろから実践しようとする意欲 ・自分自身を振り返り、自己を高めようとする姿勢		
成績評価方法	終末試験80%、確認プリント15%、出席5%		
テキスト・副読本	子育て支援カウンセリング（図書文化）		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　2年		
科目名	言語表現	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	(前期)・後期・通年	担当教員	高岡　純子
時間数	15時間		
科目の目的と講義内容	保育者として言語表現技術の基礎的知識および必要な技術を身につけ。保育の方法を学習する。 日ごろから興味関心を絵本や昔話に持つことを望む。そして、言葉と表現力についての学びを深め、物語を吟味・分析する力を身につける。		
目指す検定・資格	特になし。		
指導方法及び学生に期待すること	言語表現活動が子どもの人間形成に果たす意義を理解する。		
その他			
	前期		
授業の概要	「知識」に関しては、昔話、絵本などに多く接し、言葉と表現力について学ぶ。 保育者として、物語を吟味・分析する視点を得る。 「技術」に関しては、言語環境の構成や読み聞かせの基本を理解し、実践力を高める。 実演を通して、体験的な学びを実施する。		
到達目標	・表現技術のひとつとしての言語表現について、基礎知識・技術を習得する。 ・絵本や紙芝居を中心とする児童文化財に関する基礎知識を習得し、表現力豊かな実演を行うことができる。 ・言語表現活動が子どもの人間形成に果たす意義を理解する。		
成績評価方法	・作品 ・口頭表現 ・提出物		
テキスト・副読本	・講師作成の資料を配布する。 ・参考図書は授業中に紹介する。		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　2年		
科目名	乳児保育Ⅰ	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	(前期)・後期・通年	担当教員	土居　直美
時間数	前期：　30時間　／　後期：時間	実務経験：保育士として保育所、子育て支援センター勤務の経験を活かし、乳児の発達やかかわり、制度などを指導する。	
科目の目的と講義内容	乳児期の子どもの成長発達や発達課題、保育内容、保育実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につける。 また、子育てを担う保護者を支援する保育者としての役割を自覚し、支援を行う上で必要な知識や技能を修得することを目指す。		
目指す検定・資格	特になし		
指導方法及び学生に期待すること	講義、演習を用いて乳児の定義や乳児保育の意義、それに纏わる内容などの基礎知識を習得できるようにする。 乳児の人形を使用し、沐浴、着替え、排泄等の基礎技能が身につく。 調乳ができるようになる。		
その他	近畿大学通信教育部スクーリングにて実技内容は連携している。		
	前期		
授業の概要	保育現場において、乳児の保育活動に従事できるよう、基礎的な知識と技能修得に向け講義、演習を行う。		
到達目標	乳児の定義や乳児保育の意義、それに纏わる内容などの基礎知識を習得できる。 沐浴、着替え、排泄等の基礎技能が身につく。 調乳ができる。		
成績評価方法	課題25%、期末試験70%、出席5%		
テキスト・副読本	はじめて学ぶ乳児保育　同文書院 保育所保育指針　厚生労働省 プリント		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　2年		
科目名	乳児保育Ⅱ（スクーリング）	科目区分	一般科目・専門科目
開講期	前期・後期・通年	担当教員	土居　直美
時間数	前期：15時間　／　後期：　時間	実務経験：保育士として保育所、子育て支援センター勤務の経験を活かし、乳児の発達やかかわり、制度などを指導する。	
科目の目的と講義内容	乳児期の子どもの成長発達や発達課題、保育内容、保育実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につける。 また、子育てを担う保護者を支援する保育者としての役割を自覚し、支援を行う上で必要な知識や技能を修得することを目指す。		
目指す検定・資格	特になし		
指導方法及び学生に期待すること	講義、演習を用いて乳児の定義や乳児保育の意義、それに纏わる内容などの基礎知識を習得できるようにする。 乳児の人形を使用し、沐浴、着替え、排泄等の基礎技能が身につく。 調乳ができるようになる。		
その他			
	前期		
授業の概要	保育現場において、乳児の保育活動に従事できるよう、基礎的な知識と技能修得に向け講義、演習を行う。		
到達目標	乳児の定義や乳児保育の意義、それに纏わる内容などの基礎知識を習得できる。 沐浴、着替え、排泄等の基礎技能が身につく。 調乳ができる。		
成績評価方法	期末試験70%、実践25%、出席5%		
テキスト・副読本	はじめて学ぶ乳児保育　第三版　同文書院 保育所保育指針　厚生労働省 プリント		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　2年		
科目名	教育実習（前期）	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	前期・(後期)・通年	担当教員	土居　直美
時間数	90時間		
科目の目的と講義内容	幼稚園の教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。		
目指す検定・資格	幼稚園教諭二種免許		
指導方法及び学生に期待すること	幼稚園での一日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。 部分実習または全日実習の指導計画を立案することができる。		
その他			

	前期
授業の概要	専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために第１回（２週間）の実習では、観察・参加実習、部分実習を実習では、指導実習を主とする実習を行うこととする。
到達目標	・幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。 ・幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。 ・幼稚園での１日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。 ・部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。
成績評価方法	1. 実習日誌の記述内容 ①「観察記録」の記述内容、②「本日の実習についての反省・感想・今後の課題など」の記述内容 2. 指導計画の記述内容 ①「朝の会」「絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びや音楽の弾き歌いなどの短時間で行える活動」「昼食指導」「帰りの会」の部分実習、②「午前の主な活動」「午後の主な活動」の部分実習 3. 実習園による評価
テキスト・副読本	テキスト：「教育実習事前事後指導」 参考文献：内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領・保育所保育指針（H29年告示)』チャイルド本社 林幸範・石橋裕子編著「保育園・幼稚園の実習完全マニュアル」成美堂出版 東山明・名賀三希子著「教育・保育実習実技ガイド」ひかりのくに 片山紀子編著「保育実習・教育実習の設定保育」朱鷺書房 教育実習の手引き（専門学校岡山情報ビジネス学院）

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　2年		
科目名	教育実習事前事後指導（スクーリング）	科目区分	一般科目・専門科目
開講期	前期・後期・通年	担当教員	土居　直美
時間数	後期：15時間		
科目の目的と講義内容	教育実習に向けた事前の心構えや準備に関する基礎的知識を理解する。 幼稚園の役割や幼稚園教諭の職務についての理解を深める。 また、指導計画の立案方法を学び、実践することで、指導計画の作成方法を身につける。		
目指す検定・資格	幼稚園教諭二種免許状		
指導方法及び学生に期待すること	実習生として自身が現場で学ぶべきこと、とるべき姿勢について、明確な目的意識と自覚を持たせる。 講義、演習を用いて幼児期の発達段階の理解や幼稚園の機能と役割、幼稚園教諭の職務と役割などについて学び、基礎知識を習得できるようにする。 ねらい、内容、教師の援助や環境構成について学び、発達段階に沿った指導計画の立案ができるようにする。		
その他			
	後期		
授業の概要	幼稚園実習に向けての心構えをもち、基礎的な知識と技能修得に向け講義、演習を行う。 3才児、4才児、5才児の発達段階に沿った、ねらい、内容を立て、援助や環境構成についても考えていくことができるよう指導案作成をする。		
到達目標	実習生として自身が現場で学ぶべきこと、とるべき姿勢について、明確な目的意識と自覚をもつ。 幼稚園の役割や幼稚園教諭の職務などについて理解する。 発達段階に即した指導計画の立案ができる。		
成績評価方法	試験70%、実践25%、出席5%		
テキスト・副読本	幼稚園教育要領　文部科学省 プリント		

専門学校　岡山情報ビジネス学院

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　2年		
科目名	保育実習Ⅰ（保育所）	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	(前期)・後期・通年	担当教員	土居　直美
時間数	90時間		
科目の目的と講義内容	「保育実習」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設で行う実習である。 10日間の実習で体験的な学びをする。 保育現場での保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのようにつながるか理解する。		
目指す検定・資格	保育士		
指導方法及び学生に期待すること	実践を通して、保育の技術・能力を向上させる。 自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。		
その他			

	前期
授業の概要	「保育実習」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設で行う実習である。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。 ①保育所における１日の流れ ②子どもへの理解を深める ③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ ④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める
到達目標	・保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。 ・実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。 ・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。
成績評価方法	①実習日誌・事後レポートなどの提出物 ②実習園の評価 ③勤務状況等
テキスト・副読本	テキスト：石橋裕子他編『新訂　知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等　実習ガイド　第２版』同文書院　2020年 参考文献：『幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』石橋裕子他　同文書院 『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）』内閣府・文部科学省・厚生労働省　チャイルド社 『保育所保育指針解説書（H30年３月）』厚生労働省　フレーベル館 その他、書店で指導計画作成書や、教材研究に関する書物を探して活用すること。 保育実習の手引き（岡山県保育士養成協議会）

専門学校　岡山情報ビジネス学院

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　2年		
科目名	保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	(前期)・後期・通年	担当教員	土居　直美
時間数	15時間　／　後期：　時間		
科目の目的と講義内容	保育実習（保育）の全体的な枠組みを理解し、実習に挑む心構えを作る。 また、実習の自己評価や総括を行い、新たな課題の明確化を図る。		
目指す検定・資格	保育士		
指導方法及び学生に期待すること	主体的に講義に参加し、知識や技術の習得はもちろん、実習に対する心構えをしっかりとする。		
その他			
	前　期		
授業の概要	この科目では、初めに保育実習の意義・目的・内容といった保育実習の全体的な枠組みを概説する。 それに続いて、具体的な内容を通して保育所実習についての授業を行う。 保育所実習前にすべき事柄・指導計画立案の作り方・実習記録の作成および、実習後にすべき事柄などを中心に具体的な実例に基づきながら行っていく。 また、保育所の実習目標、実習課題、実習に向けた学習計画についてレポートをまとめていく。 「保育実習Ⅰ」終了後は、実習の反省、次回の実習にむけた課題など実習事後レポートをまとめる。		
到達目標	・保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。 ・指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に付ける。 ・実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。		
成績評価方法	①保育実習事前レポート ②授業への積極的参加と課題等提出		
テキスト・副読本	テキスト：石橋裕子他編『新訂　知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等　実習ガイド　第２版』同文書院　2020年 参考文献：『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）』内閣府・文部科学省・厚生労働省　チャイルド社 『保育所保育指針解説書（H30年３月）』厚生労働省　フレーベル館 保育所実習の手引き（岡山県保育士養成協議会）		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　２年		
科目名	保育所実習指導Ⅱ	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	(前期)・後期・通年	担当教員	土居　直美
時間数	前期：15 時間　／　後期：時間	実務経験：保育所、子育て支援センターでの経験を経て、子どもの発達にかかわってきた。この経験を活かし、子どもの内面を理解することの大切さを学生に理解させる。	
科目の目的と講義内容	・1 年間で習得した知識や技能、実習Ⅰで体験したことを基盤として、保育を総合的に関連つける力と保育実践に生かす力、応用力の向上を目指すことを目的とする。 ・0 歳児から就学前の子どもの発達に即した遊びの指導案を計画作成、実践演習を通して実践力をつける。		
目指す検定・資格	特になし		
指導方法及び学生に期待すること	・手作り教材を使用する指導案作成や年齢にあった中心保育（遊び）の指導案を作成し、実践演習を重ねる。 ・実践演習を重ねていくことで、人前で話すことに慣れ自信や対応力がつき、実習に対する意欲が湧くことを期待する。		
その他			
	前　期		
授業の概要	・実習Ⅱの実習内容と実習に対する心構え ・子どもと遊ぶ中での関わり方、子どもの気持ちの受け止め方、表情や態度から見られる子どもをキャッチする視点、捉え方について ・0歳児から就学児までの子どもの発達を捉えた遊びの保育立案と指導案作成、手作り教材を使用する指導案作成、実践演習を重ねる。他者の意見や感想を聞き改善、修正しながら演習		
到達目標	・実習の心構え、保育士として必要な資質を理解し、実習Ⅱに向けての意欲が高まる。 ・子どもの内面を読み取るポイント、読み取り方を理解、習得する。 ・子どもの何を育てようとするか、ねらいをおさえた指導案の作成。 ・子どもの前で、明るくハキハキと関われる自信がつく。		
成績評価方法	単元レポート　50%　実技　30%　提出物　15%　出欠席　5%		
テキスト・副読本	・保育実習の手引き（岡山県保育士養成協議会） ・保育園・幼稚園の実習完全マニュアル（成美堂出版）		

専門学校　岡山情報ビジネス学院

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　2年		
科目名	音楽Ⅱ	科目区分	一般科目・専門科目
開講期	前期・後期・通年	担当教員	井上　美樹
時間数	前期：30 時間　／　後期：30 時間	実務経験：音楽大卒業後 30 年以上、音楽教室講師として幼児から大人まで、ピアノ、電子オルガン、リトミック、音楽理論、幼児指導法等を教えている経験を活かし、保育の現場で役に立つ技術力と実践力を養う。	
科目の目的と講義内容	音楽Ⅰで学んだ基礎、演奏技術を基盤として、子どもの音楽表現の場に必要な指導力の習得と技術向上を目的とする。		
目指す検定・資格	特になし		
指導方法及び学生に期待すること	ピアノ・声楽の個別指導に加え、子どもの前でも自信を持ち、落ち着いて演奏できるように、授業内で他の学生の前で演奏する機会を設け、慣れさせる。季節・行事・生活に曲のレパートリーを増やせるように練習に励んでほしい。		
その他			

	前期	後期
授業の概要	実習先でも自信を持って子どもの指導が出来るように、保育の現場で必要な表現力を身に付ける。	曲に合った演奏や指導が出来るように、音楽の楽しさを伝えられる技術、指導法を身に付ける。
到達目標	季節・行事・生活の曲のレパートリーを増やし、人前でも落ち着いた演奏ができる。	音楽の素晴らしさを子どもたちに伝えられる指導力、表現力を身に付け、落ち着いた演奏ができる。
成績評価方法	確認テスト（65%） 期末テスト（20%） 授業態度（10%） 出席（5%）	前期と同様
テキスト・副読本	「音楽（ピアノ教本）」 「音楽（声楽教本）」 近畿大学九州短期大学 「子どものうた 100」 チャイルド本社 プリント	前期と同様

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　2年		
科目名	図画工作Ⅱ	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	前期・(後期)・通年	担当教員	髙月　香帆里
時間数	前期：時間　／　後期：15 時間	実務経験：幼稚園、保育園での勤務経験を活かしながら、造形活動に必要な知識と技能を解かりやすく実践的に指導する。	
科目の目的と講義内容	子どもの造形教育に関わる上で必要な知識、技能の習得（造形、色彩や構成）を行い適切で充実した援助、教育を行うことを目的とする。 さらに、製作や表現する楽しさを味わいながら、保育・教育の現場で必要なスキルを磨き、現場で即戦力となれるような技術力を身につける。		
目指す検定・資格	特になし		
指導方法及び学生に期待すること	現場で必要となるスキルを身につけるため、実技的な授業を行う。		
その他	全て実践（制作）で行い、記録表を作成する。		
	後期		
授業の概要	・図画工作Ⅱを学ぶ目的について ・自己紹介の工夫作品 ・ハサミを使った製作を考える。 ・手作り絵本 ・貼り絵 ・発達段階に沿った製作を考える。		
到達目標	・制作活動を通して自由に表現する楽しさを味わいながら、現場で使えるスキルを身につける。 ・創作活動において発想力・創造力を引き出すことの大切さを体験的に学習する。 ・子どもに向けて実践することをイメージしながら制作することで、より現場に通用する技術を身につける。		
成績評価方法	提出物（50%）、作品ノート（30%）、出欠席（5%）、授業態度（15%） で評価をつける。		
テキスト・副読本	参考資料提示・配布プリント		

専門学校　岡山情報ビジネス学院

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科		2年
科目名	パソコン演習	科目区分	(一般科目)・専門科目
開講期	(前期)・後期・通年	担当教員	伊丹　稔博
時間数	前期:　15時間　／		
科目の目的と講義内容	ワードを使用し基本的な書類の作成と仕組みを理解し、特徴を紹介しながら、情報の整理・加工方法などの基本的な操作方法を学ぶ。 パワーポイントの作成を通して、プレゼンテーションの技術を学ぶ。		
目指す検定・資格			
指導方法及び学生に期待すること	画像の挿入、ページ設定、文字の段落設定を行い、見やすい文書を作成できるようにする。 パワーポイントの作成を通して、プレゼンテーションの基本を理解できる。		
その他			
	前期		
授業の概要	Microsoft Wordに用意された文章を作成するための様々な補助機能を活用し、ビジネス文書作成技術を習得することを目的としている。 パワーポイントの作成を通して、プレゼンテーションの技術を学ぶ。		
到達目標	罫線、表、グラフィックス等を利用し、読みやすいレイアウトデザインの文書を作成することができる。 見る側の立場に立って分かりやすくプレゼンを行う基礎技術を養う。		
成績評価方法	出欠席（5%）実技試験（45%）、プレゼンテーション、提出物（50%）で評価をつける。		
テキスト・副読本	30時間でマスター Office2016:実教出版 プリント配布		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科		2年
科目名	介護概論	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	前期・(後期)・通年	担当教員	伊丹　稔博
時間数	後期：15 時間	実務経験：大学卒業後、介護施設、障がい者施設にて、直接介護、サービス管理提供責任者としての経験を活かし、法制度、実務、請求業務等の講義を行う。	
科目の目的と講義内容	保育業界でも社会福祉を学び高齢者、障害者等介護業界についても介護全般の介護概論を学ばせる。社会福祉、高齢者、介護保険等制度的な概要を学び、実際に介護保険を利用するとどれくらいの金額になるのかを学び、社会保障に目を向ける		
目指す検定・資格	特になし		
指導方法及び学生に期待すること	確認テストを実施し、成長を実感させながら教えていく。		
その他			
	後期		
授業の概要	保育業界においても子どもだけでなく、高齢者や障害者について社会福祉の分野を学ぶ。		
到達目標	社会福祉や高齢者、障害者について制度的な内容を理解する。		
成績評価方法	期末試験（75%）、提出物（20%）出席（5%）に基づいて評価する。		
テキスト・副読本	プリント対応		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　2年		
科目名	身体表現Ⅱ－1	科目区分	一般科目・専門科目
開講期	前期・後期・通年	担当教員	土居　直美
時間数	前期：15 時間　／　後期：　時間	実務経験：保育士として保育所、子育て支援センター勤務の経験を活かし、実践的な表現遊び、オペレッタなどの基礎を指導する。	
科目の目的と講義内容	1年次で学んだ遊戯の構成や表現力についてさらに磨きをかけ、子どもに対する表現の指導方法を身につける。また、保育園・幼稚園で必ず行われる生活発表会の遊戯に関して企画、立案、実践を行い、より現場で必要なスキルを身につけることを目標とする。		
目指す検定・資格	特になし		
指導方法及び学生に期待すること	子どもに対する表現の指導方法を、実践の中で身につけていく。また、どんな場面でも物怖じすることなく自分を表現できるような表現力を身につける。そのために、発表の場を多くもち、グループワークを通して反省考察を行い、理解を深めていけるようにする。		
その他			
	前期		
授業の概要	・1年次の振り返りを行う。 ・振り付けの方法、遊戯の構成方法を再確認する。 ・グループ毎にリトミックの指導方法を実践する。 ・グループ毎にミニオペレッタを作成、発表を行う。		
到達目標	・リトミックやリズムあそびを実際の保育現場を想定して実践することで、幼児への指導方法を身につける。 ・オペレッタの構成方法や小道具、大道具の作り方を身につける。		
成績評価方法	表現発表（50%）授業態度（15%）出欠席（5%）レポート（30%）で評価をつける。		
テキスト・副読本	実践　心ふれあう子どもと表現　（株）みらい 松家まきこ・鈴木範之　編		

専門学校　岡山情報ビジネス学院

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　２年		
科目名	身体表現Ⅱ－2	科目区分	一般科目・専門科目
開講期	前期・後期・通年	担当教員	土居　直美
時間数	前期：　時間　／　後期：15 時間	実務経験：保育士として保育所、子育て支援センター勤務の経験を活かし、実践的な表現遊び、オペレッタなどを指導する。	
科目の目的と講義内容	前期で学んだ遊戯の構成や表現力についてさらに磨きをかけ、子どもに対する表現の指導方法を身につける。また、保育園・幼稚園で必ず行われる生活発表会の遊戯に関して企画、立案、実践を行い、より現場で必要なスキルを身につけることを目標とする。		
目指す検定・資格	特になし。		
指導方法及び学生に期待すること	子どもに対する表現の指導方法を実践の中で身につけていく。また、どんな場面でも物怖じすることなく自分を表現できるような表現力を身につける。そのために、発表の場を多くもち、グループワークを通して反省考察を行い、理解を深めていけるようにする。		
その他			
	後　期		
授業の概要	・前期で学んだことの振り返りを行う。 ・クラスで一つの題材を取り上げ、保育園や幼稚園で行われる生活発表会の遊戯を企画、立案、実践、発表を行う。		
到達目標	・クラスで一つのものを作り上げることで、自分の役割に責任を持ちながら話し合いを進め、最後までやり遂げる。 ・2年間リトミックの授業で学んだことを生かし、表現力、構成力に磨きをかける。		
成績評価方法	表現発表（50%）授業態度（15%）レポート（30%）出欠席（5%）で評価をつける。 ・オペレッタに向けての準備への参加状況、オペレッタの発表の様子（構成力・大道具小道具の出来栄え・表現力）で評価する。		
テキスト・副読本	実践　心ふれあう子どもと表現　（株）みらい 松家まきこ・鈴木範之　編		

専門学校　岡山情報ビジネス学院

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　2年		
科目名	保育教養Ⅱ	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	前期・(後期)・通年	担当教員	土居　直美 鳴坂　圭介
時間数	前期：時間　／　後期：15時間	実務経験：保育所、子育て支援センターでの勤務経験を活かし、保育者として必要な知識や技術、教養など実践的な指導を行う。	
科目の目的と講義内容	・他科目で習得した知識や技能、実習で体験したことを基盤として、保育を総合的に関連付け保育実践に生かす力、応用力の向上を目指す。 ・保育現場で必要な保育技術、技能、テクニック、話術等、より保育の専門性を高める。 ・社会人としてのマナー、ルール、知識、考え方等教養を身につける。		
目指す検定・資格	特になし。		
指導方法及び学生に期待すること	・講義形式の他、保育現場での事例や「あたりまえだけど　とても大切なこと」を基にグループディスカッション、グループロールプレイをして実践的に学ぶ。 ・保育現場で必要な保育技術、技能、テクニック、話術等、より保育の専門性を高める。		
その他			
授業の概要	・「あたりまえだけど　とても大切なこと」より社会人としての社会規範 ・社会人としての教養（知識、考え方） ・保育士も人なり、相手も人なり「子どものモデル」 ・教材研究（手作り教材、教具、手遊び、わらべ歌、集団遊び、触れ合い遊び集作成）		
到達目標	・他科目で習得した知識や技能、実習で体験したことを基盤として、保育を総合的に関連付け保育実践に生かす力、応用力の向上を目指す。 ・保育現場で必要な保育技術、技能、テクニック、話術等、より保育の専門性を高める。		
成績評価方法	期末試験　70%　　提出物　25%　　出欠　5%		
テキスト・副読本			

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　　２年		
科目名	食育Ⅱ	科目区分	一般科目・専門科目
開講期	前期・後期・通年	担当教員	高月　香帆里
時間数	前期：　時間　／　後期：15 時間	実務経験：幼稚園、保育園での勤務経験を活かし、具体例を交えながら解説することで、食育の重要性や基礎知識の理解と実践力の育成を図る。	
科目の目的と講義内容	近年、子どもを取り巻く食事の状況は社会の変化と共に変化を続けている。そこで、保育、幼児教育の現場に携わる上で子どもを中心としながらも保護者とともに食のあり方を知り、実践に生かすための基礎知識を習得し、より実践的な技術を学ぶ。		
目指す検定・資格	特になし。		
指導方法及び学生に期待すること	食育Ⅰで習得した食育基本法をはじめとした、社会全体の取り組みや子どもを取り巻く環境の変化などの基礎学習、自分自身の食生活を踏まえた上で、より実践的な技術を学び実践できる。		
その他			

	後期
授業の概要	１年次に学んだ基礎的事項を生かし、より実践的な技術を身につける。 ・一汁三菜について ・模擬給食指導 ・食中毒について ・虫歯について ・キャラ弁の作成・子どもに伝える食 ・食育教材作成及び発表
到達目標	・実践経験を重ね、子どもに伝える技術の向上を図る。 ・楽しむ経験から、子どもとともに楽しむ方法を見出し、力をつける。
成績評価方法	後期試験（実技 30%、筆記 40%） 課題提出（25%） 出席（5%）
テキスト・副読本	厚生労働省 HP、消費者庁 HP 子どもの食と栄養　北大路書房 プリント

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科	2年	
科目名	教育実習指導	科目区分	一般科目・(専門科目)
開講期	前期・後期・(通年)	担当教員	土居　直美
時間数	前期：15時間　／　後期：15時間		
科目の目的と講義内容	教育実習に向けた事前の心構えや準備に関する基礎的知識を理解する。観察記録の作成や指導計画の立案方法を学び、実践することで、指導計画の作成方法を身につける。また、教育実習後に振り返りを行い、反省・考察を行うことで次年度の実習に向けて生かしていけるようにする。		
目指す検定・資格	幼稚園教諭二種免許状		
指導方法及び学生に期待すること	幼児期の発達段階の理解や幼稚園の機能と役割、幼稚園教諭の職務と役割などについて学び、実習でより理解を深められることができるようにする。また、指導記録の作成や指導計画の立案ができるようにする。実習後、クラスで振り返りを行い、次年度の実習に向けて準備を行う。		
その他			

	前期	後期
授業の概要	・教育実習に向けての心構え、意義、目標 ・幼稚園の役割や一日の流れについて ・幼稚園教諭として必要な資質について ・指導計画の立案について ・手遊びや、製作遊び、リズム遊びなどの技術力向上について	・幼稚園の現場で利用できるパネルシアター、ペープサートの必要性や作成 ・教育実習後に振り返りや反省、考察をするとともに、次の教育実習や現場に向けての意識向上や準備や心構えについて
到達目標	・幼稚園教諭としての必要な資質がわかり、実習に向けて意識を高めていく。 ・指導計画の立案ができ、ねらいと内容が適切に立てることができる。 ・幼稚園の現場で利用できる手遊びや製作あそび、設定遊びを計画できる。	・パネルシアターやペープサートを作り、現場での使い方や活用方法を知り実際に発表する。 ・教育実習での振り返りから、反省考察を互いに共有し、次年度に役立てることができる。
成績評価方法	指導計画の立案、提出（50%）手遊び、模擬保育などの実技演習(45%)、出欠席(5%)で総合的に評価する。	指導計画の立案、提出（50%）手遊び、模擬保育などの実技演習(45%)、出欠席(5%)で総合的に評価する。
テキスト・副読本	・幼稚園教育要領　文部科学省	・幼稚園教育要領　文部科学省

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科　2年		
科目名	子ども家庭支援の心理学	科目区分	一般科目・専門科目
開講期	前期・後期・通年	担当教員	土居　直美
時間数	前期：　時間　／　後期：30　時間	実務経験：保育士として保育所、子育て支援センター勤務の経験を活かし、より実践的な力を身につける。	
科目の目的と講義内容	生涯発達に関する心理学の知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題について理解する。 家族、家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係などについて発達的に理解し子どもとその家庭を含む現代社会の状況と課題を理解する。		
目指す検定・資格	保育士・幼稚園教諭		
指導方法及び学生に期待すること	保育の心理学など他科目との連動性を理解し、子どもの取り巻く家族や家庭、地域への支援の方法を学ぶ。 事例検討を十分に行い、発達を理解したうえで考え提案ができる。		
その他			
	後期		
授業の概要	・生涯発達、家庭支援を学ぶ意義と目的 ・乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、中年期、高齢期の発達 ・家族、家庭の意義と機能 ・家族関係、親子関係の理解 ・子育ての経験と親としての育ち ・子育てを取り巻く社会的状況 ・ライフコースと仕事、子育て ・多様な家庭とその理解 ・特別な配慮を要する家庭 ・子どもの生活・生育環境とその影響 ・子どものこころの健康にかかわる問題		
到達目標	生涯発達を理解し、子どもを取り巻く様々な問題を支援するスキルを身に着ける。		
成績評価方法	課題 15%、出席 5%、筆記試験 80%		
テキスト・副読本	『子ども家庭支援の心理学』　公益財団法人児童育成協会　中央法規出版社		

令和６年度　シラバス

学科・学年	保育学科		2年
科目名	ビジネス実務Ⅳ	科目区分	(一般科目)・専門科目
開講期	前期・(後期)・通年	担当教員	髙月　香帆里
時間数	前期：時間　／　後期：35時間		
科目の目的と講義内容	日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人材」には、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。 そのために必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とした講義内容を１年次からレベルアップさせることを目的とする。		
目指す検定・資格			
指導方法及び学生に期待すること	上記の目的が達成できるように講義と共に一般常識等の確認テストや社会人になるための動機づけ、やりがいなどを具体的に学生に伝えていき、社会人として常識なる人材になれるようにする。		
その他	各学科の業界に合わせた就職活動に必要な内容も入れる。 人間力向上のための学科行事、全体行事に向けての指導を含む。		
	後期		
授業の概要	1年次で学んだ一般常識、マナーの知識を活かし、さらなる上を目指す。 この知識と企業研究で得た知識を活かし、就職活動に挑む強い心を育む。		
到達目標	①自ら即就職活動ができる。 ②社会人として必要なマナー・礼儀を身に付けることができる。 ③漢字力・計算力を身に付け活用できる。		
成績評価方法	期末試験（95%）、出欠席（5%）		
テキスト・副読本	テキスト： 「社会常識マナー検定テキスト」全国経理教育協会		

専門学校　岡山情報ビジネス学院